

職員による自己評価

A環境面

○活動スペースは利用人数が多い時、不安定になった児童の対応をする時に足りないと感じ、バリアフリー化は可能な限り改善が必要（建物の構造を考量した中で）

○スタッフ数は女性スタッフが休みの時に「女性スタッフが足りない」という意見も。

B 児童への支援内容

○研修の機会は昨年に続き、確保できている。

○打合せの機会も十分だが、プログラム立案の連携は課題がある。

○アセスメントツールやガイドラインについても知識・理解も熟知して支援に反映していきたい。

C 関係機関との連携

○自立通所の児童が通っている学校や医療機関との連携は不十分。また障がいのない児童との交流の機会も無いが、ニーズや実際にどう行うか慎重に考える。

D 保護者への説明責任・信頼関係

○日々保護者との情報共有はできているが、ペアレントトレーニングや保護者会の場も設けると更に良い。

E 非常対応

○虐待防止研修、避難訓練は定期的に行っている。

○身体拘束についての説明や緊急時のマニュアルを保護者への周知に改善が必要。

保護者による評価

A環境面

○バリアフリー化に関して、昨年に比べて「どちらもいえない」が減り「はい」が増えており、評価をいただいている。

B 児童への支援内容

○活動プログラムに関して、今年も支持されている。

○障がいのない児童との関わりは「どちらもいえない」が半数以上。

C 事業所からの情報発信

○支援内容や子育ての助言など、日々の情報共有・連絡体制は満足していただいている。「カリキュラムでの心配な問題点に電話で相談にのっていただき、とてもありがたい」というご意見もあった。

○保護者会は今年度も開催できず「どちらもいえない」の評価が多かった。

D 非常時対応

○避難訓練については良い評価をいただいているが、マニュアルの周知はもう少し。

E 満足度

○「楽しみにしている」という所ではとても満足していただいている。

○「外出プログラムの事前告知」「家庭内への助言」と評価していただいているコメントもあった。

事業所内での分析

【共通点】

- 障がいのない児童との関わり、保護者会の実施が足りていない。
- 活動の情報発信は足りている
- 非常事態の訓練実施の回数の確保
- 非常時マニュアルの周知、共有への認識

【相違点】

- 活動のスペース・バリアフリー化・職員数への認識。
- 支援や子育ての助言に関する認識。
- 活動に対する意識。
- 非常時マニュアルの周知、共有への認識

## 分析・検討してみたて…

### 事業所の強み

- ・保護者からの総評は概ね良い。
- ・研修や避難訓練の機会は増えている。
- ・活動に関しての満足度が高いが、スタッフ側は「まだまだ改善できる」と考えている。
- ・研修や非常時の訓練の機会は今年度も確保できている。
- ・保護者との日々の連絡体制、活動の情報発信ができています。

### 事業所の改善点

- ・バリアフリー化。
- ・保護者会の実施ができていない。
- ・障がいのない児童との関りの場が無い。
- ・スタッフ間の支援についての知識・認識の違い。
- ・活動プログラム計画時のスタッフ間の連携向上
- ・医療機関や学校との更なる連携。

### 事業所の改善への取り組み

- ・バリアフリー化やスペース確保のため、引き続き整理整頓の徹底。
- ・支援や活動の立案についてはスタッフ間で話す場、学ぶ場をさらに増やしていく。
- ・保護者会は「毎年〇月に行う」と恒例化して実施する。
- ・学校（特に自立通所児童）との連絡体制の強化。医療機関に関しても保護者からの聞き取りを行い、情報を更新していく。
- ・非常時マニュアルをスタッフ間で共有後、保護者にお便りなど書類を配布し周知に努める。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度も活動や支援へのご理解、ご協力していただき誠にありがとうございます。また、良い評価が多く感謝の気持ちでいっぱいです。ただ「保護者会の実施」は保護者の皆様、スタッフどちらからも昨年に続いて課題点として変わっていないので、保護者同士やスタッフとの交流の場として来年度は実施します。

そして、今まで以上に保護者の皆様、関係機関、スタッフと今まで以上に連携の強化を努め、日々の支援に繋がっていきますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。